

東京農工大繊維 木下陸肥路
文化女子短大 大森 正子

1 ミシン縫いの縫目安定性を研究中、縫糸の物理的性状を必要としたが最近の縫糸については満足せる研究結果を捜しえなかつたので、各種の縫糸について総合的にその各種物理的性質を研究することにした。今回は最も重要な糸の太さと強さに関係する諸量について報告する。

2 試料のサンプリングに留意して、ポビン内、ポビン間、ダース箱間から統計的にサンプリングした試料につき一定張力下で長さを測定して番手斑を算出し、各種のパラッキを考察する。次に糸の小さい斑を糸斑試験機で計量し、顕微鏡で実経を測定して考察する。次に各種の縫糸につき荷重伸長曲線を求めて糸の構成と強さの関係を究明し、なほ弾性的数値を中心として考察する縫合物として実際に力を受ける。引掛試験を行いその強力低下を検当する。

3 これによって各種縫糸の太さ斑が統計的に証明でき、呼称番手と実際番手との関係が判明した。強さ関係の最終結果は未完であるが縫糸として最も注目しなければならぬ弾性伸び、仕事量等が銘柄、糸の種類について判明する。